

討論の部

司会 では討論をはじめてください。

復旦A 慶応側の発表の中で行われた「中国は国際的なルールに従うべきだ」との提言について質問します。今年の四月に日本はねぎなどの（中国からの輸入品に）セーフガードを発動しました。このセーフガードの発動によって、中日両国の貿易戦争が起こりました。このような貿易戦争は国際的なルールに反するものではないでしょうか？

慶応（董） 日本政府の発動したセーフガードは国際的なルールに則ったものです。それはWTOおよびGATTの中で定められたルールです。日本政府は中国との「貿易戦争」を起こすためにセーフガードを発動したのではありません。あくまで、国内産業の保護のために発動したのです。

慶応（真鍋） いま慶応の董さんからされた返答が、日本政府の公式見解です。ただ、実を言いますと、今回のセーフガードの発動は、日本国内においても一般的には非常に評判の悪い政策です。例えば、中国からネギを安く輸入しようとしているのは、日本の流通業者です。従って、今回のセーフガードの発動によって、日本の流通業者や、国内の高いネギを買わなければならなくなった日本の消費者も被害者となっています。ですから、日本国内でも人気のない政策なのです。しかし、日本国内のネギの生産者などからの政治的な働きかけが日本政府にあったために、今回、このような政策が取られたのだと思います。私の個人的な意見では、今回の政策は誤りであったと思います。

慶応（宮本） 私は二つ質問があります。復旦側の発表の前半で日本の企業と比較してドイツのワーゲンとアメリカのGMをあげられま

した。ワーゲンとGMは、中国国内での現地化を進めたことによって、実際にはどれくらいの実績をあげたのでしょうか？

復旦（鄒） 私たちの発表の中には、ドイツのワーゲンが日本支社の自動車生産部品のうち、70%の現地化を達成したということが書いてあります。アメリカのGMについても、多くのデータを集めることができましたが、残念ながら字数の関係上、論文の中に含めることはできませんでした。GMの上海支社が生産する乗用車の現地化率も上昇しています。約40%以上です。

慶応（宮本） 私が質問した内容は、ドイツの自動車会社が自動車生産をどのくらい中国国内の工場に移したかではなく、そうした現地化によって、どれくらいの利益をあげたかということです。

復旦（鄒） レジユメの7ページを観てください。3段目のところに、書いてありますが、私は「現地化」というのは、ドイツのワーゲンやアメリカのGMが行っているように、企業設備や職員を中国国内で調達するということだと思います。これによって、生産コストの圧縮や、その他にもより適切な中国市場でのマーケティングができるといったメリットがあります。私が協調したいことは、ドイツのワーゲンやアメリカのGMの中国市場で、日本のトヨタや日産よりも大きなシェアを占めているということです。このような現状は、私が指摘したように、日本企業が中国国内での現地化を進めていないからだだと思います。

慶応（宮本） 私のもう一つの質問は、復旦側が発表の中で、日中関係が目指すべき事例として、アメリカとメキシコの自由貿易協定をあげられたことについてです。具体的には、

アメリカとメキシコの自由貿易協定の、どのような部分を日中は参考にすべきだとお考えですか？

復旦（鄒） 最初に、手元のさまざまなデータを論文中に掲載できなかったことをお許しいただきたいと思います。私が申し上げたかったのは、アメリカとメキシコとの間の貿易関係は、日本と中国との貿易関係よりも、より親密なものであるという点です。そのような高いレベルでの協力関係のために、アメリカとメキシコとの間で相互に市場が開かれ、より透明な貿易関係を築き上げています。お互いの交流をさらに密接にできるということです。当初、この協定はアメリカが先進国であり、メキシコは発展途上国であるために、アメリカの国民にはアメリカの側にはあまり利益が無いと見られていました。ところが実際には、両国の貿易額は年々上昇し、お互いに利益をあげてきていることが指摘できます。また、注意しなくてはならないことは、アメリカとメキシコとの関係と日中両国との関係には、相違点も存在するという点です。しかし、私はアメリカとメキシコとの関係は、日中関係を考える上で参考にできる点もあると考えています。私は、日中両国はより高いレベルでの協力関係を築くことができると考えます。それは、相互利益を追求することによってはじめて可能になることです。ご質問ありがとうございました。

復旦B 私も少し付け足しをしたいと思います。現地化のメリットに関する最初の質問についてです。私の考える、「現地化」の最大のメリットは、中国政府の支持が得られるようになるということです。この点は、対中投資においてはとても重要なことです。外国の企業が現地化を進めることによって、新聞などのメディアを通じた製品の広告活動を行い易くなります。二番目のメリットは、復旦のAさんも述べた通り、コストの削減ができるということです。この点について、少し

私の経験談をお話したいと思います。私は日本企業で半年間アルバイトしたことがあります。その経験から、私は日本の会社の中国での現地化はあまり望ましくないと考えようになりました。何故なら、日本の会社の場合、日本、本国から多くの駐在員を派遣してくるからです。この駐在員たちのために、彼らが必要とする設備などもすべて日本から送られてきます。たとえば、宿舎、生活用品、交通手段、子供の教育のための日本社会そのものも一緒に送られてくるわけです。この結果、私は上海に「小さな日本社会」が出現したと感じました。このような設備移転によって、日本の会社には非常に高いコストがかかります。また、日本人駐在員たちが本当の意味での現地化をすることも難しくなっています。さらに、現地の中国人職員たちと日本から来た駐在員たちとの関係もあまり上手くいなくなっています。このような問題は、欧米諸国の企業ではあまり見られない事です。実をいえば、復旦大学の卒業生はあまり日本企業に入りたいとは考えていません。それは、日本の企業が本当の意味での現地化を進めていないからです。私の個人的な見方では、日本の企業の対中投資には、きちんとした戦略的な考え方が欠けていると思います。

司会 時間になりましたので、ここでしばらく休憩時間を挟みたいと思います。

休憩

司会 時間になりました。それでは、討論の後半をはじめてください。

復旦C 中国のWTO加盟について慶応側の学生の意見をお聞かせ下さい。一つ目は、WTOに中国が加盟する資格があるかどうかについてです。中国が先進国あるいは発展途上国としてWTOに加盟するということです。二つ目は、世界の予測についてです。世界各国は中国のWTO加盟について、どのような結果になると考えているのでしょうか？三つ目は、世界への影響についてです。

世界の経済構造の改革と貿易戦争です。世界経済の中に中国のような巨体を受け入れるのかどうか。四つ目は、政策規制や産業への影響および収入制限など中国社会への影響です。五つ目は、国際関係への影響です。例えば日中関係への影響です。国家政府と市場と社会という三つの観点からお答え下さい。私は中国のWTO加盟にあたって、三つ点を指摘したいと思います。最初は、日中両国は経済協力の利点を放棄すべきではないということです。二番目は、日中経済の相互補完性を活かすべきだということです。特に世界経済のグローバル化と情報のボーダーレス化による影響を軽んじてはならないということです。今現在、日本は中国の第一位の貿易相手国であり、日本の対中投資額が、中国への投資総額の中で第一位を占めています。日中両国には、既に友好協力を進める環境があると思います。アジア経済の発展は日中協力なくしては語れない。アジア金融危機やユーロの誕生、北アメリカ大陸でのドル通用力などを考えれば、日中両国の協力関係はもっと急速に発展しなければならないと思います。特に貿易投資と企業の問題についての協力です。日本はEUやアメリカを頼るべきではなくて、中国を貿易パートナーとしてもっと重視すべきだと思います。中国のWTO加盟は日中両国間の歴史問題などの障壁を無くしたと言えるでしょう。中国のWTO加盟によって、日中両国間の貿易摩擦を減らす事になると思います。例えば、もし日中両国の間で貿易摩擦が起これば、WTOのルールに従う事によって解決できるからです。また、中国のWTO加盟によって両国の社会的にもさまざまな影響があると思います。日中両国は相互に協力すれば、お互いの利益につながりますが、争い合えば、相互に不利益を被ることになります。私は国際社会が中国を助けるべきだと思います。これは態度の問題です。戦後アメリカは西欧諸国の復興を支援しました。中国のような人工

大国で短期間の利益を求めて多くの企業を作り、また都合が悪くなればすぐに撤退して多くの失業者を出すというようなことは、大変大きな問題です。

小島教授 すみませんが、もう少し短く話してください。

復旦C 最後に一つだけ言わせて下さい。欧米諸国は中国へ厳しい要求をするのではなく、中国を助けるべきです。この点についての日本側の意見をお聞かせ下さい。

慶応(真鍋) どの点についてお答えすれば良いかよくわかりませんが、中国のWTO加盟について僕なりの意見を答えたいと思います。さまざまな影響があると思いますが、一つ指摘しておきたいことは、政府間で行われる「経済協力」と、企業が行う「経済活動」とは別々のものだということです。企業は利益に基づいて経済活動を行います。従って、中国が魅力のある市場であれば、外国の企業はそこへ進出しますが、そうでなければ進出はしないということです。また、日本の企業が中国での現地化を進めないために国際的な競争力を失うとすれば、その企業は淘汰されるということであります。私の理解では、中国のWTOへの加盟は、中国政府が自国の国内市場の自由化を進めるという意志の現われだだと思います。ということは、ますます中国市場が自由競争の原理に従って動くようになるということだと思います。日本は現在、経済の構造改革を進めていて生産性の低い業界を淘汰しようとしています。これと同様の問題がWTO加盟後の中国に起こるだろうと思います。日本国内には政府による構造改革に抵抗しようとする勢力もありますが、日本政府はこれらの抵抗を排して改革を進めようとしております。私が中国政府に期待することは、中国でも同じように構造改革を進めていくことです。

復旦D 慶應の董さんの発表について意見を述べたいと思います。発表の最後でW

TOに加盟する中国に対してさまざまな提言をいただいております。特にWTO加盟によって中国の多くの産業に影響が及ぶことをご指摘いただきました。私は、WTO加盟によって中国の国内産業が中国国内の外資企業に影響を受けるだけではなく、中国の国営企業が中国の私営企業からの衝撃を受けるだろうと思います。今、中国では、私営企業が共産党に入党できるようにとの改革が行われています。このように、中国のWTO加盟に関して、私は、中国の産業がどのような影響を受けるかだけではなく、中国の政治システムがどのように変わっていくのかも考えなければならない問題だと思います。また、産業への影響に関しては、特に農業に対する影響を考えなければならないと思います。中国の農業は、膨大な労働人口に対して耕地面積が少なすぎるという問題に直面しています。特に近代的な農業生産技術が足りないと思います。従って、WTO加盟後の中国は大量の余剰労働力の問題に苦しむかもしれません。中国のWTO加盟は、大量の出稼ぎ労働者を生む問題につながる一方で、他方では農業システムの変革につながるという性質も持つと私は考えています。私のもう一つの論点は、知的財産権の保護の問題です。しかし、私はこの問題が改善の方向へ進んでいくということに自信をもっています。私の実家は中国の南昌市ですが、そこには大きな市場があります。そこでは専門的に海賊版の商品ばかりが売られています。CD一枚がたったの3元で買えます。私自身も消費者としてこの市場へ行きました。そこで私が見てきたものは、中国の知的財産権侵害の問題は、海外の製品だけではなく、中国国内の製品にも影響を与えているということです。最近になって、この市場が閉鎖されるという話が出てきています。今年の9月30日からこの市場がなくなります。私はその市場のあるお店の人に「これからは何を販売しますか？」と尋ねました。

彼の返事は「海賊版を止めて正式版のCDを販売します」というものでした。

復旦C 先ほどの方の質問に答えようと思います。先ほど、日本側の学生は、「中国が市場自由化を希望している」と言いました。私の答えとしては、現在中国の経済は、自由化をしている最中であり、市場経済化は一步一步進めていく必要がある、ということです。日本の経済も、初期の段階では政府主導型の経済政策を行っていました。このような経済は東アジア型の経済と呼ばれましたが、これによって日本経済の高度成長をもたらされました。それなのになぜ、中国が高度経済成長を達成する過程で、このような政府主導型の経済政策を行うのを許さないのでしょうか。つまり我々が言いたいのは、中国が市場経済を目指すのは長期的な目標であり、早急に行う必要はないということです。

慶應A 自由化についてですが、僕が中国に来て、改めて感じたことがあります。それは、中国の人はルールを守らない。ルールをきっちり守ろうという習慣がない、ということです。例えば道路を歩いているときも、自分の身は自分で守らないと頼れるものがないように感じられました。市場の自由化は、その根底にルールがなければ、上手く機能することはありません。ですから、中国の市場経済化が成功するかどうかは、どのように法を守る意識を育てていくにかかってくると思います。これについて意見ををお願いします。

復旦E 中国には自らの力で経済化を進める予定があります。しかし、法の整備は時間がかかる問題です。中国にとって、WTOに加盟することはコストが高いものです。それにも関わらず加盟することは、中国が国際ルールに近づこうと努力していることを意味しています。そしてWTOについては、中国人は皆、加盟が眼前の問題であることを強調しています。しかし、一番大きなチャレンジとは、中国政府が伝統的な経済モデルを変

えなければならないということなのです。中国の伝統的な経済モデルとは、政府が主導で経済に介入し、経済運営に参加している、ということです。しかし、これからの中国政府の役割は、参考資料にあるようなルールを作り、それが円滑に行われるように監督を行うということです。個人的な意見としては、WTO加盟後には、昔から参入している分野から撤退し、新しく、かつ以前には足りない分野に取り組むように構造改革を行わなければならないでしょう。

慶應（宮本）先ほどの質問に答えたいと思います。「政府主導のモデルを日本は採っていたのに、なぜ中国が政府主導で経済政策を行うのがいけないのか」ということですが、確かに初期の日本では、政府主導で経済政策を行いました。そして、それは必要なことだったと思うのですが、GATTとWTOでは、少し事情が異なってくると思います。中国が自らWTO参加の意思を示したことで、我々は、早く自由化を進めるものであると受け止めますし、そもそも早急に変えたいから、WTOに加盟することを決めたのではないのでしょうか。であるならば、早く政府主導モデルから変えるべきであると思います。

復旦F 私自身の意見を述べたいと思います。いわゆるWTOのメンバーの国であっても、WTOのルールに合わせるには構造上の問題が存在します。それは先進国においても同様です。ただ、相対的に見て、先進国のほうがWTOのシステムに簡単に参加できる、ということです。それは2つの原因があると思います。まず、先進国には長期の市場経済の歴史があるという点です。また、WTOのルールは先進国が最初に決めたことであるという点です。ですから、発展途上国にとってWTOに加盟することが困難を伴うことは、認識して欲しいと思います。中国はいわゆる発展途上国と同じですから、WTOのルールに従うためには時間が必要なのです。

慶應B 中国側のおっしゃっているWTOに関する問題、また国際社会が何を求めているかですが、市場に魅力があることを決めるのは基本的に企業であると思います。中国が最初にすべきことは、魅力のある市場を作ることであると思います。その一つとして、知的所有権の問題があると思うのです。先ほど陳霞さんがおっしゃっていたような、現地法人化すると、政府に優遇されるというのは、決して魅力のある市場作りではないと思います。なぜなら、公平性が保たれていないからです。政府の優遇により不利を被ってきた企業もあるのではないのでしょうか。

復旦B 私は、そのような政府の支持があるからこそ、よりたくさんの方が投資が集まると思います。私の知る限りでは、日本でも通産省がある特定の産業を支持しています。市場経済の論理を言うと、政府は何もやらないというわけではありません。マクロ調節を行っています。今回のような日中貿易摩擦が生じた原因は、日本がこのような経済政策をとった結果と言えます。

慶應（真鍋）次のような例があります。自動車会社のトヨタは、以前中国から合併の話がありましたが、当時のトヨタはその申し出を断りました。そのため、現在トヨタが中国に進出したいと思っても、中国政府の支持が得られないため、販売権を獲得することができません。トヨタは中国市場ではとても困難な状況にいます。このような例からも、中国が外資を導入していこうという面において問題があると思います。

復旦G 中国の国民は、日中両国の将来に悲観的な態度を取っているように思います。このような感情は、日中間の経済に影響しており、そこから事件などが生じています。以前にも、日本の製品が品質の問題で回収されたことがあります。回収されたときに、中国市場の対応と欧米市場の対応は異なっていました。中国人民の感情は刺激されたのです。

日中両国の信頼は、とても重要な問題だと思います。中国側も反省すべきですが、日本側も自分の反省をすべきなのではないでしょうか。

慶應C 日中両国の信頼関係も重要かもしれませんが、より重要なのは中国市場が予測可能性の高いものになることだと思います。さらに、契約などで何か問題が生じたときに、果たして中国企業は国際ルールに従って係争してくれるのでしょうか。もし国際ルールにしたがって係争を行うならば、どの国の企業にとっても参加しやすくなるでしょう。しかし、ここで政府が保護のために介入すれば、国際市場における例外を作ることになります。ですから、政府の支持によって有利になったり不利になったりしては、どの国の民間企業にとっても投資のリスクが増すでしょう。よって一番重要な信頼性とは、中国市場が国際ルールを守るといことであると思います。

復旦H 先ほどの中国側の発言ですが、悲観的というのは彼女の意見で、多くの中国人は日中の関係について好意的な考え方を持っています。日中両国の学生がここに座って意見交換をすることは、日中両国の関係発展を期待しているということです。ここで、中国がWTOに加盟した後のことについて意見を述べます。中国の市場経済の加速はとても遅かったので、ルールの整備が完全に整うことも遅くなると思います。ですから、中国政府は今、各種類のルール整備などの努力をしています。それは、中国がWTOに加盟してから、そのルールに従うためです。しかし、もう一方ではWTOのルールが必ずしも合理的なものではない、と言えらと思います。つまり、WTOのルールは先進諸国用のものであり、発展途上国はそれに合わせなければならない、ということです。これは、発展途上国にとっては合理的なものではないと思います。私自身の意見としては、世界各国の経済

協力を強化することや、世界経済を発展させるために、WTOのルールを変える必要もあると思います。

慶應(大崎) 中国はWTO加盟に向け、ゆっくりではなく早急なルール作りを行う必要があると思います。経済がグローバル化している中で、日本や韓国といった東アジアの諸国は競争力を高める努力を怠っていました。そのために、現在大きな構造改革の必要が迫られています。中国は経済開放を行ってから20年で、上海や広州といった各地域では急速な発展をしましたが、その結果、制度的な矛盾が生じています。朱鎔基首相は、上海市長時代から非常に熱心にアメリカ型の経済ルールに基づく改革を行っています。中国の経済において、経済格差などの問題は生まれましたが、そういった努力は評価されていると思います。仮に、中国があと10年、20年の単位で世界の経済の流れに乗ろうとするならば、日本のように改革を遅らせるべきではなく早急に行うべきです。一時的な痛みはありますが、早急な改革を行うことが、ここ10年で日本が得た教訓であると思います。

復旦I この学生の意見には同意できません。中国には、独特の国情があるからです。中国の人口は日本の10倍で、日本で一人の失業者が出る場合、中国ではその10倍になります。中国の経済発展の最も重要な問題は政治的安定です。もし、加速的な政策を



とれば、政府の安定も保たれないと思います。先ほど、上海、広東などを例に挙げましたが、

その成功も中国の中央政府と地方政府が大きく支持した結果です。しかし、今の中央政府に中国全土を上海のように発展させる能力はありません。それこそが、中国が一步步経済成長を進めていかなければならない理由なのです。これは、世界各国に理解していただきたい点です。

慶應（真鍋） 経済の発展を、どのくらいのスピードで行うかというのは難しい問題です。しかし、日本の改革について世界からよく言われるのは、“too little, too late”ということです。その結果、日本の評価が下がってきているのです。そのため、現在小泉内閣は、痛みを伴う改革を進めようとしています。ここでぜひ中国側に質問をしたいのですが、日本の改革について、日本国民は全体として賛成をしています。しかし個別の問題になると、反対する人が出て改革を遅らせています。中国も国有企業の改革を進めるべきだとは、国民の多くは理解していると思います。しかし、一つ一つの問題になると反対勢力が出てくると思います。それなのに、一步一步進めていくという態度で、抵抗勢力を乗り越えられるのでしょうか。

復旦J 私指摘したいのは、中国と日本の改革は質が違うということです。中国は改革開放制度を20年も実施しました。しかし、中国の経済はまだ厳しいと思います。中国は、改革のスピードもゆっくり進める必要があります。先ほど慶應のAさんが、自分の身は自分で守らなければならないと言っていました。ただ、昔の中国には、道を渡るときにも信号すらなかったのです。ルールを作る

には時間が必要です。中国にとって、これからやるべきことは、市場経済に参加する人にルールを守ってもらうということだけです。中国政府がWTO加盟を決定したことは、中国中の政府にとって大きな損となっているのです。しかし、中国全体が損を受けるということで、一丸となって外国と競争するための努力を行うということです。

復旦E 先ほどから日本の学生が言っている、日本の改革とか、日本の産業構造の改革は、経済の改革です。中国が今、取り組んでいる改革は政府のシステムの改革であって、政治制度の改革です。だから、これらは別々の分野での改革であって、比較できないものです。我々が、WTOのルールに合わせるということは、中国の市場を完全に開放することではなく、ある部分では保護する部分も残されているということです。日本はWTOに加盟していますが、日本の農産物に対する保護は世界一強い保護ではないでしょうか。WTO加盟しても、各国が自分の利益を確保することが優先されます。そして、何か問題が起こったときにWTOのルールに従うということです。

司会 午後の討論は総合ディスカッションですから、今まで討論したテーマについても自分の関心のあるテーマについても、交流することができます。明日の見学では、上海政府が法律整備のために、一体どういう努力しているかが実感できると思います。では終わります。